

ゴルフ各団体、2021年の振り返りと

2022年を迎えての抱負



新春恒例のゴルフ関連団体15団体「2022年ゴルフ新年会」は、コロナ禍の影響もあるため、前年に続き開催中止となった。

本誌では、例年各団体に新年の

抱負についてインタビューを行っており、今年も各団体から、様々な今年の振り返りと今年の抱負を聞くことができたので紹介していきたい。

協会創立60周年を迎えるにあたり、新たな協会方針を策定し 取組みます

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会（PGS）

池田育嗣会長



参加された選手の皆様にもご協力いただき、安全安心に選手権競技を開催することが出来ました。ありがとうございました。

PGSは、創立以来アマチュアゴルファーに競技を提供することによって、全てのゴルファーとゴルフ普及活動に貢献してきました。コロナ禍ということもあり、2020年は50年を超える歴史ある選手権競技を全て開催中止としましたが、2021年は「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」と「PGS競技運営マニュアル」の内容を遵守した大会運営を行い、

2021年の夏には東京オリンピックが開催され、日本ゴルフ界史上初となる稲見萌寧選手が銀メダルを獲得し、コロナの影響で暗いニュースばかりが目立つ中、大変面白い話題を提供してくれたと感じています。その稲見選手や畑岡奈紗選手、星野陸也選手といった日本代表として戦った選手を始め、現在活躍する多くのツアープロがジュニアゴルファーだった頃、PGSの選手権競技に出場し、競技経験を積んでいきました。その選手達が成長し世界で活躍していることであると同時に、公益社

団法人として、ゴルフの普及、そしてゴルフの底辺拡大は大変重要な役割であると再認識させられる次第です。

競技会以外では、ゴルフ普及のための活動として、ゴルフに全く接点が無いゴルフ未経験の一般市民を対象とした「手ぶらdeゴルフ、ゴルフきつけ体験」プログラムで使用されるゴルフ入門用の小冊子やグッズの提供他、学校単位で参加する「小学生ゴルフ体験授業」で使用される小冊子を作成する等、自治体（ゴルフの街いちほら…千葉県原市）と連携し協力してきました。

このプログラムでゴルフに興味を持っていただいた初心者や初中級程度の皆様には、自身の現在の実力が確認する事ができ、目標を持ってゴルフに取り組む事に大変有効なJGA公認ハンディキャップ取得を勧めています。また、PGSでは取得したハンディキャップを使用し、楽しめるアンダーハンドイ競技会を全国で延べ200以上の会場で開催しており、需要に対応出来る体制が整っています。さらに、選手権競技やアンダーハンドイ競技に加え、自身の年齢

がハンディキャップに採用され、高齢者になっても競技が楽しめるドリーム・エイジゴルフ大会や、初心者が仲間と一緒に楽しめるスクランブル方式のペア戦やチーム戦を開催しています。今後あらゆるニーズに応えられるよう様々な競技会に取組んでまいります。

近年コロナ禍ということもあり、PGSそしてゴルフ界を取り巻く環境は、著しく変化してきています。進むべき方向性が、不透明になっていくものもあると感じていますので、この機会に公益社団法人として今一度、課題や問題点、将来の展望など方向性を明確にして、新たなPGSの基本方針を策定する組織を立ち上げました。今後、加盟コースが丸となって取り組んでいく体制を、強化していきたいと考えています。

従来の施策を踏襲し、活況感を活かして取り組みます

日本ゴルフ場支配人会連合会

八木秀夫会長



平素より日本ゴルフ場支配人会連合会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。昨年終盤にはあれだけ猛威を奮

っていたコロナ感染者数も大きく減少し、ゴルフ場業界のみならず日本全体に明るい兆しが見えてまいりました。

当連合会での調査では一時的に大きく落ち込んだ来場者数もここに来て持ち直し、大きく増加しているクラブもあります。

しかし、昼食無しのスループレーや大型コンペによるパーティの中止など今まではプレー形態の変化が著しくなっています。

100年に1度のパンデミック

と言われるこの機会に、変化に対応すべく各ゴルフ場で考えていかなければならないと思っています。

さて、本年の連合会活動方針でございますが、2021年5月に新会長として就任したばかりという状況から前会長の田村和男顧問の施策を踏襲して行きつつ、支配人会の皆様は役立つ情報発信を行ってまいりたいと思っています。

2021年より引き続きの事案であります女性来場者増員策につきましては、それぞれの地域やクラブ独自に施策を講じており、着実に効果を発揮しています。

2022年は、2016年調査と比較できる内容で女性来場者の集計を行っていくよう進めていくことになっております。

次に廃プラ削減問題ですが、日本ゴルフサミット会議において『NO!プラごみ』と謳い、支配人会としても啓蒙に励んでいるところでもあります。いち早く浴場のビニール袋廃止に対応、また秋田県、山形県のように浴場のカミソリを廃止したクラブがある一方で、ビニール袋廃止等に関しましては来場者からの反発、またコストの問題も大きな壁になって難しい状

況のクラブも多数あるとの報告をいただいております。

次に労働力確保の問題も大きな課題となっております。特にコース関係職員の高齢化です。

2020年労働災害の発生件数は2019年対比で135件減少しているものの、大型車両を扱うコース整備職員の事故は65歳以上が大半を占めております。

労働安全衛生委員会の委員を含め、それぞれの職場において労働災害には留意しているところですが、年齢的な衰えや判断ミスなどがこのような結果になっていることが考えられます。

待遇改善、魅力ある職場作りがより一層必要になってくるものと考えております。

最後に、現在のゴルフ場を取り巻く活況感を一過性のものに終わらせないためにも、連合会では藤本賢治副会長（くまもと中央）をはじめ、岡本豊（千葉夷隅）、原田俊作（GC四条畷）、豊嶋俊二（札幌国際）、國澤利久（パシフィックGC）の4名の常任幹事、ならびに1633の支配人会加盟クラブおよびゴルフ関連団体と密接で良好な関係を保ちつつ、支配人

会という現場の意見が一番反映される組織として、2022年を良

い年にしたいと考えております。

NPOとして30周年、新しい時代へ継続と変革に邁進します

特定非営利活動法人日本芝草研究開発機構

田村和男理事長

回比60%程度という結果となりました。

ただ、年の後半は感染も縮小し、セミナーも実施できるようになるなど、本来の業務もできるようになってきました。この間にオンラインピックやマスターズなどゴルフ人気を後押しするようなエポックがあり、ゴルフを始めようという若い世代が増えたようでもあり、その結果各ゴルフ場も芝草管理に力を注いできているように感じられました。

当団体は2022年にNPO設立30周年の節目を迎えます。この間、延べ1万1000人超の芝草管理技術者が誕生し、多くの分野で活躍されております。ただ、活躍の分野は広がっていますが、ゴルフ場の相対的なシェアは低下しつつあり、最近では資格者の55%前後がゴルフ場となっています。時代の変化に対応した結果ともいえませんが、やはり芝草管理の多くはゴルフ場であり、その質的充実を図ることが必要と考えます。

2021年は新型コロナウイルスの蔓延もあり、2級の資格認定事業は前

きたいと考えます。

また、SDGsにおいて芝管理は重要な地位を占めるもので、より環境負荷の少ない管理の在り方を進めたいと考えます。

ゴルフコース管理の人手不足や人材難という声もよく聞かれます。より良い就労環境づくりや芝生管理技術の省力化・IoTなど新規

技術など積極的に情報提供できるようにしたいと考えます。

最後にゴルフ場、各施設のオーナー、最高責任者の皆様に芝草管理者の知識・技術の向上が如何に重要であるかを認識いただき、資格取得、知識の習得の機会をぜひ与えていただきたいとお願ひいたします。

練習場連盟創立70周年をステップに将来の業界発展に繋がる取り組みを行います

公益社団法人全日本ゴルフ練習場連盟

横山雅也会長



平素より（公社）全日本ゴルフ練習場連盟の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、コロナ禍の中ゴルフ練習場は、コロナ感染対策を早期から実施し、安心、安全な3密を避けられる野外施設として、多くのお

お客様に会場いただきました。特に2021年は、4月のマスターズトーナメントでの松山選手の優勝、6月の全米女子オープン優勝、8月の東京オリンピック女子での銀メダルと今までになくゴルフ界は盛り上がり練習場には既存のお客様に加え、多くの新規参入ゴルフアーや休眠復活ゴルフアーが来場されました。

ただこれからは、他のスポーツとの競合、旅行等も回復し、練習場業界も通常に落ち着く事が予測され、多くの新規参入ゴルフアー、休眠復活ゴルフアーの方々も含めゴルフを継続してもらおうための中

長期ビジョンの検討が必要と考えられています。

2022年は、日本で最初にゴルフ練習場連盟が創立されてから(1952年東京ゴルフ練習場連盟9場で創立)70周年の記念の年になります。

そこで、公益社団法人としてゴルフの普及、国民の健康促進等将来のゴルフ業界の発展に繋がる取組みを行いたいと考えております。

ゴルフ練習場が地域の役割(健康促進等)を掘り起こし、地域住民に必要とされる存在を目指したいと思っております。

昨年のJGRAの取組みでは、

- ①練習場の安全管理
- コロナ感染対策

コロナ感染症対策ガイドラインの改訂版(第5版)を発行し、安心安全な施設の推進。

- 練習場の強風による鉄塔対策

2020年に台風による鉄塔倒壊事故が発生し大きな社会問題になりました。防止対策の定期的情報提供。

- ②若年層マナー対策

弾道計測機器を導入した新しいゴルフエンターテイメント施設も増えたためより多くの新規ゴルフ

アー(若年層)が来場しています。その反面、新規ゴルファーのマナー問題も発生したためマナー啓蒙ポスターを作成し、全国のゴルフ練習場へ案内をしました。

- ③ジュニア活動

ジュニア活動では「ジュニアゴルフアー検定制度」を軸に、ジュニアを対象とするイベント開催に役立つコロナ感染対策「ガイドライン」改訂版も作成し安全な運営に努めています。

- ④練習場業界の人材育成

ゴルフビジネス(ゴルフ練習場の運営、経営)に携わる者の資質向上を目的に「JGRAゴルフレンジプロデューサー資格認定」講座をオンラインでスタートしました。今後はより充実した資格認定講座に取り組み、優秀な人材育成に努めてまいります。

- ⑤JGRAビジネスセミナーの開催

オンラインを活用しポストコロナ、コロナ収束後のシナリオ等について他業種の実態を交えセミナーを開催しました。他団体の方々にも発信できるセミナーを開催します。

- ⑥JGRAプロフェッショナル会

員活動

将来のトーナメントプロ、ビジネスプロを目指して全国の各プロックで毎月実技競技会やセミナー、学科講習会等を実施し研鑽していきます。全国の多くのゴルフ場様にご協力をいただいております。優秀な成績者はPGAプロテスト、ティーチングプロライセンス、JGTOツアラーライセンスへチャレンジしています。

このように2021年の活動はコロナ禍の中でもある一定は出来たと思っております。

最後に2022年は70周年記念の年としてよりゴルフ業界の発展に繋がる取組みを行いたいと考えています。ゴルフ関連団体、全国のゴルフ練習場と協力し、将来のゴルフ人口の増加に繋がる施策(現在10代、20代、30代の若年層戦略)や健康とゴルフをテーマにしたシニア層のゴルフリタイア防止策、練習場版SDGs等の計画を含めた取組みを立案し実行したいと思っております。

皆様方のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

余剰ゴルフ場 齊藤修 著

人口減少時代における
ゴルフ場の持続可能性を考えるための10章

全国書店および Amazon.co.jp で取扱い中

発行  一季出版株式会社

TEL 03-5847-3366
ホームページ <http://www.ikki-web.com>



好評
発売中!!

四六判96頁
定価880円(税込)